特別講演

チーム医療の観点からの認知症予防

鳥取大学医学部認知症予防学講座
浦上克哉

現代の医療においてチーム医療の重要性が叫ばれているが、認知症医療ほどチーム医療が必要な病気はないと考える。

まず、予防についてであるが、予防というと発症予防だけを予防と考えられている。これは、狭義の予防であり、広義の予防の概念では、一次予防が発症予防、二次予防は早期発見、早期治療・早期対応、三次予防は病気の進行防止である。この一次予防から三次予防までを切れ目なく行うことが重要である。

2023 年 6 月 14 日に共生社会の実現を推進するための認知症基本法が成立した。あらゆる職種が認知症対策に前向きに取り組むことが期待されている。2025 年には日本の認知症患者数は 700 万人に達すると推測されていたが、最新の調査では 472 万人と報告され減少していることが分かった。これは、認知症が予防できている可能性を示している。一方軽度認知障害(MCI)は増加していることが報告され、これからは MCI 対策が重要と考えられる。MCI はこれまで医療の対象となっていなかったが、抗アミロイドβ抗体薬が発売されて、MCI も治療対象となった。抗アミロイドβ抗体薬は病気の進行を変えることができる可能性があり、今後の進歩が期待される。抗アミロイドβ抗体薬の対象にならない MCI には非薬物的アプローチで対応する。Lancet の 2017 年版の報告により修正可能な危険因子が 35%あることが示され、その後 2020 年版で 40%、2024 年版で 45%と増加している。修正可能な危険因子の中で最も高いパーセンテージを示したのが難聴であった。高血圧、糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病対策が重要であり、食生活や運動などの対策が求められる。認知症予防プログラムとして「とっとり方式認知症予防プログラム」を鳥取県・日本財団、鳥取県伯耆町と鳥取大学とで開発し、認知機能や身体機能が有意に改善することを見出した。プログラムは運動、知的活動、コミュニケーションを中心とした内容である。現在は、普及活動を行い、鳥取県のみならず、全国、海外へ広がっている。

昨年から厚生労働省研究班に加えて頂き、「認知症の早期発見・早期対応モデルの確立」といテーマで鳥取・島根フィールドで実施しております。令和 6 年度は鳥取県琴浦町と島根県隠岐の島町で実施しました。その結果、認知機能より嗅覚機能の低下している人が多いことが分かりました。今年度は、鳥取県北栄町で同様の調査を行っている。今後の MCI、さらには前臨床期認知症の早期発見に嗅覚検査が役立つと考える。